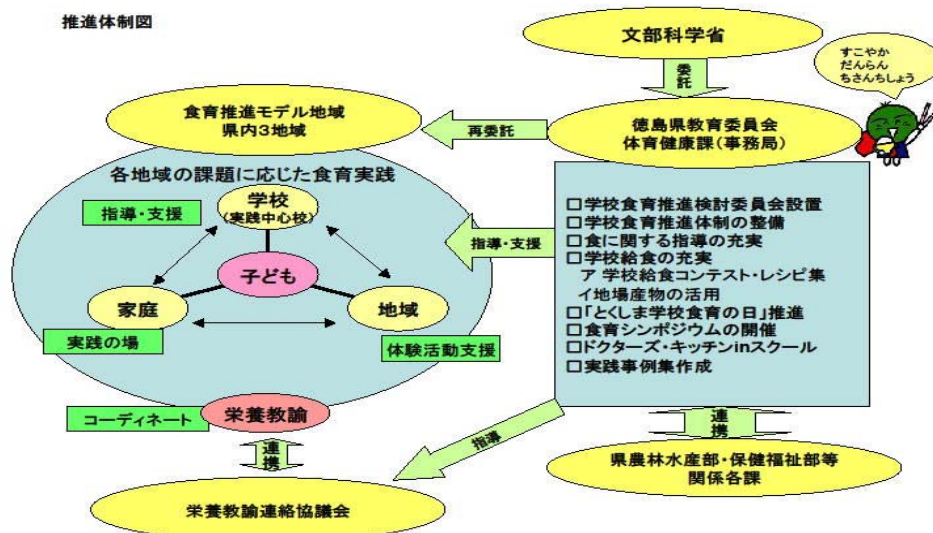


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	徳島県
推進地域名	徳島県全域

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1	食育推進体制の整備
<p>(1) 食育推進検討委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1回食育推進検討委員会(H 21年4月16日；県庁903会議室) <ul style="list-style-type: none"> ・徳島県の食育推進の取組と学校における食育推進について ○第2回食育推進検討委員会(2月開催予定) 	
<p>(2) ワーキンググループ会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1回ワーキンググループ会議 <ul style="list-style-type: none"> 開催期日：平成21年7月14日(火) 場所：徳島県庁602会議室 協議内容：本年度計画について、食育かるたの作成について、食育推進の効果検証について ○第2回ワーキンググループ会議(食育推進班) <ul style="list-style-type: none"> 開催期日：平成21年10月28日(水) 場所：徳島県庁 協議内容：食育推進の効果検証について 	
<p>(3) 各市町村における学校食育検討委員会の設置促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市町村毎に栄養教諭と市町村教育委員会食育(給食)担当者が中心になって運営。 	
<p>(4) 栄養教諭連絡協議会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1回栄養教諭連絡協議会(H 21年5月15日) <ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭の役割について ・平成21年度の予定と市町村における食育の推進について 	

- 第2回栄養教諭連絡協議会(ブロック別)
 - ・「市町村食育推進体制の整備」「食に関する指導の充実」「学校給食の充実」「学校・家庭・地域の連携」の4点について情報交換をするとともに、課題について話し合った。
- 第3回栄養教諭連絡協議会 (H 2 2年2月3日)
 - 開催期日 平成22年2月3日(水) 9:15～11:15
 - 場所 徳島県立総合教育センター
 - 対象 栄養教諭 (24名)
 - 内容 講義：学校における食育の推進と今後の課題
 - 講師 県教委体育健康課 健康教育監 丹羽 敦子
 - 指導主事 阿部 清美

テーマ2 食に関する指導の充実

(1) 食育講演会の開催と栄養教諭連絡協議会の開催

- 食育講演会
 - 開催期日 平成22年2月3日(水) 13:20～
 - 場 所 徳島県立総合教育センター
 - 対 象 学校食育リーダー、学校栄養職員、管理職員、市町村教育委員会等給食関係者
 - 内 容 「子どもたちに明るい笑顔を ～食からの教育改革～」
 - 講 師 教育・食育アドバイザー 大塚 貢 氏
- 栄養教諭連絡協議会での講話
 - 開催期日 平成22年2月3日(水) 10:50～
 - 場 所 徳島県立総合教育センター
 - 対 象 栄養教諭
 - 内 容 「教育は甦る ～給食でここまで変わる子どもの心～」
 - 講 師 教育・食育アドバイザー 大塚 貢 氏

(2) 食育啓発教材「あわ食育かるた」の作成

本年度新設された徳島県立徳島科学技術高等学校・徳島市内の幼稚園と連携し、「あわ食育かるた」を作成。

食育の一環として読み札を同校生徒より募集し、ワーキンググループで検討するとともに、絵札は総合デザインコースの生徒がCGで作成した。作成したカルタをもとに、地域の幼稚園(徳島市千松幼稚園)と交流。



- 第1回ワーキンググループ会議
(H 2 1年7月2日；徳島県庁)
作成計画・役割分担等打ち合わせ

- 食に関する実態調査アンケート実施。
対象：徳島科学技術高等学校生徒

- 読み札募集
徳島の郷土料理や地場産物等について学習したことをもとに、生徒が読み札の句を作成する。校内で募集し、約500点の応募があった。

- 第2回ワーキンググループ会議
(H 2 1年8月17日；徳島科学技術高等学校)
ワーキンググループメンバーと科学技術高等学校教諭及び幼稚園教諭が読み札の句について検討。

- 絵札の作成（徳島科学技術高等学校総合デザインコース生徒）
- 幼稚園児と高校生との交流活動 ～「あわ食育かるた」による交流活動を実施～
- 第3回ワーキンググループ会議（H21年10月23日；徳島科学技術高等学校）
解説作成と、絵札の検討。
- 第4回ワーキンググループ会議（H22年1月6日；徳島県庁）
解説について検討。
絵札、読み札最終検討。

(3)「食に関する指導実践事例集」の作成と実践報告会

- 栄養教諭による食に関する指導実践
 - ・4月から12月までに各校で食に関する指導の授業実践を行った。
- 食育推進モデル地域の栄養教諭による実践報告会
 - 期日：平成22年2月3日(水)
 - 場所：徳島県立総合教育センター（大ホール）
 - 対象：学校食育リーダー、学校管理職員、学校栄養職員、市町村教育委員会等
 - 発表者： 南部ブロック：海陽町宍喰小学校 栄養教諭 板東 由美子
西部ブロック：上板町松島小学校 栄養教諭 藤井 深雪
東部ブロック：石井町石井中学校 栄養教諭 乾 久美子

テーマ3 学校給食の充実と地場産物の活用促進

(1) 学校給食における地場産物活用状況調査の実施

- 「学校給食地場産物活用状況調査」の実施
 - ・対象調理場：123 調理場（県内の栄養教諭・学校栄養職員配置の調理場）
 - ・調査期間：6月，11月，1月の連続した5日間
 - ・調査方法：食材数ベースで，県内産，国内産，外国産に分けて調査
- 「学校給食供給ネットワーク」
 - ・市町村毎に，学校給食供給ネットワークとして図にまとめた。

(2)「学校給食アイデア料理コンテスト ～親子で作ろうOUR給食～」の開催

- 対象：県内小中学生徒とその保護者。 応募総数：102点

- 第1次審査(書類審査)
 - 期日：平成21年10月2日(金)
 - 場所：徳島県庁 1109 会議室
写真
 - 審査員：徳島県栄養教諭・学校栄養職員研究会会長，
徳島県農林水産部食育推進企画員室長他



- 第2次審査(実演審査)
 - 期日：平成21年11月1日(日) 13:00～
 - 場所：四国大学
 - 審査員：四国大学生生活科学部教授 高橋恵子氏(審査委員長)
全国農業協同組合徳島県本部長，徳島県農林水産部食育推進企画員室長，徳島県栄養士会長
徳島県PTA連合会副会長，徳島県教育委員会副教育長，徳島県教育委員会体育健康課長

○入賞作品は「学校給食アイデア料理レシピ集」として県内学校給食調理場及び公立学校・関係機関に配付するとともに徳島県ホームページで公開する予定。



最優秀賞
「豆腐と仲良しゴーヤハンバーグ」



地産地消費賞
「あわっこサラダ」

テーマ4 学校・家庭・地域の連携による食育の推進

(1) 食育シンポジウムの開催（県内3カ所）

「学校・家庭・地域が連携した子どもたちへの食育の推進」をテーマに、県内3カ所で開催した。

各ブロックごとに、校長、教諭、栄養教諭、PTA会長、生産者等がパネリストとして、各立場から見た子どもたちの実態や課題、連携のあり方等について話し合った。

- 東部ブロック食育シンポジウム（H21.7.22） とくしまふれあい健康館
- 南部ブロック食育シンポジウム（H21.7.23） 阿南市文化会館
- 西部ブロック食育シンポジウム（H21.8.19） 吉野川市役所



(2) ドクターズキッチンinスクール（詳細については、各推進モデル地域の実践報告書参照）

○趣旨

子どもの頃からの生活習慣病予防と地場産物活用促進のため、地場の食材を使った調理講習会と試食、健康づくりについて学校医等専門家による講話を、県内3カ所の食育推進モデル地域において開催。当日は、県農林水産部の「新鮮なっ！とくしま号」（4トトラック）のキッチンで調理のデモンストレーションを行った。

○南部ブロック（海陽町・宍喰小学校）

開催期日：平成21年7月3日（金） 11:00～14:00

対象：宍喰小学校5・6年生、PTA、海陽町食育推進委員

内容：6年生による調理体験活動と

地域ボランティアとの交流

講師：ホテル日航高知 総料理長 島田和幸氏

○東部ブロック（石井町・石井中学校）

開催期日：平成21年11月18日（水）

対象：石井中学校生徒、保護者

内容：講演会「生活習慣病の予防と食生活」

講師：健生病院 医師 樋端 規邦 氏

地場産物を使ったヘルシーレシピの紹介と試食



○西部ブロック(上板町・松島小学校)

開催期日：平成21年11月23日(月)

対象：上板町内児童生徒，保護者，地域住民

内容：食育講演会「楽しい食と音楽」

講師 医学博士・認定音楽療法士

板東 浩 氏

上板町の特産物で健康料理

料理研究家 三好 順子 氏

(3)「徳島学校食育の日～徳島す・だ・ち～大作戦」の推進

○「すこやか」 ～1日3回規則正しく食べよう～

○「だんらん」 ～家族と食べよう～

○「ちさんちしょう」 ～地場産物を食べよう～

を，各校で推進。給食便りや食育通信等で家庭に啓発を図った。

事業全体を通じて，特に効果のあった方策等について

○ワーキンググループメンバーに加え，幼稚園及び高等学校の教員と連携し，幼児から小学生向けの食育教材「あわ食育カルタ」を作成した。各市町村教育委員会及び公立学校に配付し，食に関する指導に活用する。

○親子を対象とした「学校給食アイデア料理コンテスト」により，家庭への啓発の一助となった。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

○推進地域を各ブロック毎に3地域指定したことで，地域の実態に応じた特色ある取組が展開されている。この取組を県内に広く伝えることで，全県的なレベルアップを図りたい。

あわ食育かるたの色分け

このあわ食育かるたは，かるたの枠の色で食品の分類・徳島に関するもの・その他に分けています。

例)

赤	→ 肉・魚・卵・大豆・海藻など
緑	→ 野菜・きのこ・果物など
黄	→ ごはん・パン・麺・いもなど
茶	→ 徳島の食文化など
青	→ 赤や黄・緑・茶に当てはまらないもの

あ 阿波尾鶏

食べなきやそんそん

徳島の味

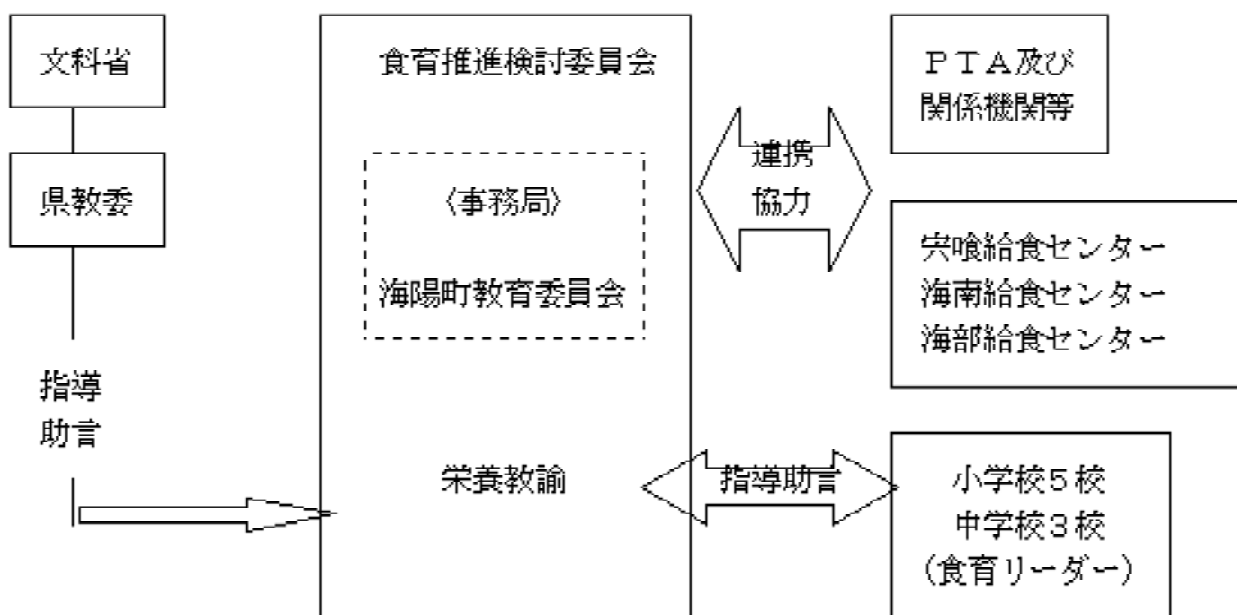
●阿波尾鶏(徳島)
じつは徳島文化の象徴的な存在で、徳島の阿波尾鶏にちなんで
あわが作られた。阿波尾鶏の卵みとつがまは、徳島の
なかでは日本一の名産品です。

イラスト作成：徳島科学技術専門学校 総合デザインコース
平成21年度食育推進事業「あわ食育かるた」制作委員会

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	徳島県
推進地域名	海陽町

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1 学校食育推進体制の整備

- ① 校内で食育推進委員会を立ち上げ、全職員共通理解のもと、食育を推進している。
- ② 学級園の土づくり



テーマ2 食に関する指導の充実

- ① 「早寝・早起き・朝ごはん」のアンケート実施
- ② 給食アンケートの実施
- ③ 毎月食育通信の配布 テーマを決めて郡内すべての小・中学校に配布
- ④ 5年生稲作体験実施（5月20日／田植え・9月14日／稲刈）
- ⑤ ドクターズキッチン 7月3日（金）
対象：5・6年生・保護者
内容：「新鮮なっ！とくしま号」を使い、学級園で収穫した野菜を使った料理教室を、ホテル日航高知 総料理長 島田和幸氏を講師に迎え実施。
- ⑥ 2年生：学級園で栽培した夏野菜を使ってピザづくり
- ⑦ 3年生：自分たちでとってきた天草で「おやつづくり」（すだちゼリー・心太・フルーツポンチなど）
- ⑧ 給食のメニューに、学級園で収穫した夏野菜を使った「夏野菜カレー」の実施
- ⑨ お弁当づくり料理教室 10月6日（火）
対象：保護者・地域の方
ホテル日航高知 総料理長 島田和幸氏を講師に迎え、実施。
出来上がりを「遊山箱」に詰めて、可愛くまた簡単にできるヒントなども教えて頂いた。
- ⑩ 「牛乳利用親子料理教室」の開催。 12月11日（金）
対象：6年生と保護者
内容：アンケートの結果朝ごはんは食べているが、内容に問題があると分かったので、簡単にできる朝ごはんメニューで実施
- ⑪ 下学年に「はしとも」を使ってお箸の持ち方の授業を実施。
- ⑫ 交流給食会 1月21日（木）
内容：5年生が収穫したもち米を使い、生産者・農業後継者の方を招き交流給食会を実施。
- ⑬ 学習発表会 2月7日（日）
内容：生活科・総合学習での取り組みを発表し、地域の方・保護者に見て頂く。
- ⑭ 3年生が寒茶摘み体験 2月17日（水）
内容：久尾地区の伝統ある寒茶摘みを体験。後日お茶の葉になって届く。



田植え（5年生）



稲刈り（5年生）



ドクターズキッチン



夏野菜ピザづくり（2年生）



天草とり（3年生）



お弁当づくり（保護者・地域の方）



箸の持ち方の授業



交流給食会



寒茶摘み体験

テーマ3 学校給食の充実と地場産物の活用推進

- ① 保護者や地域の方の声かけで、地場産物の使用が増えている。
- ② 9月から米飯の回数を週3回から4回に増やした。
- ③ 12月から、全て海陽町産米を使用。

テーマ1～3に共通する具体的計画

※ 先進地視察

訪問先：香川県綾歌郡 綾上中学校・滝宮小学校

日時：平成21年10月25日・26日

内容：「弁当の日」を視察。

すばらしい講演と、中学校の生徒・先生・竹下校長先生のお弁当を見せて頂いた。

本校の保護者は、お弁当を持参させることに抵抗がある。「お弁当づくりの講習会」をしたり、6年生にお弁当づくりをする機会をったりして、親子で食への感心を持たせればと考えている。

※ 農業体験活動

内容：夏・冬野菜のための土づくりをし、学年にあった野菜の種まきや苗植えた。

収穫した野菜で、各学年にあった調理実習を実施したり、給食にも取り入れ足りすることで、家庭でも食に関心を持ち、食べることを大切にできるように習慣づけた。

※ 食育講演会の実施

日時：平成21年11月28日

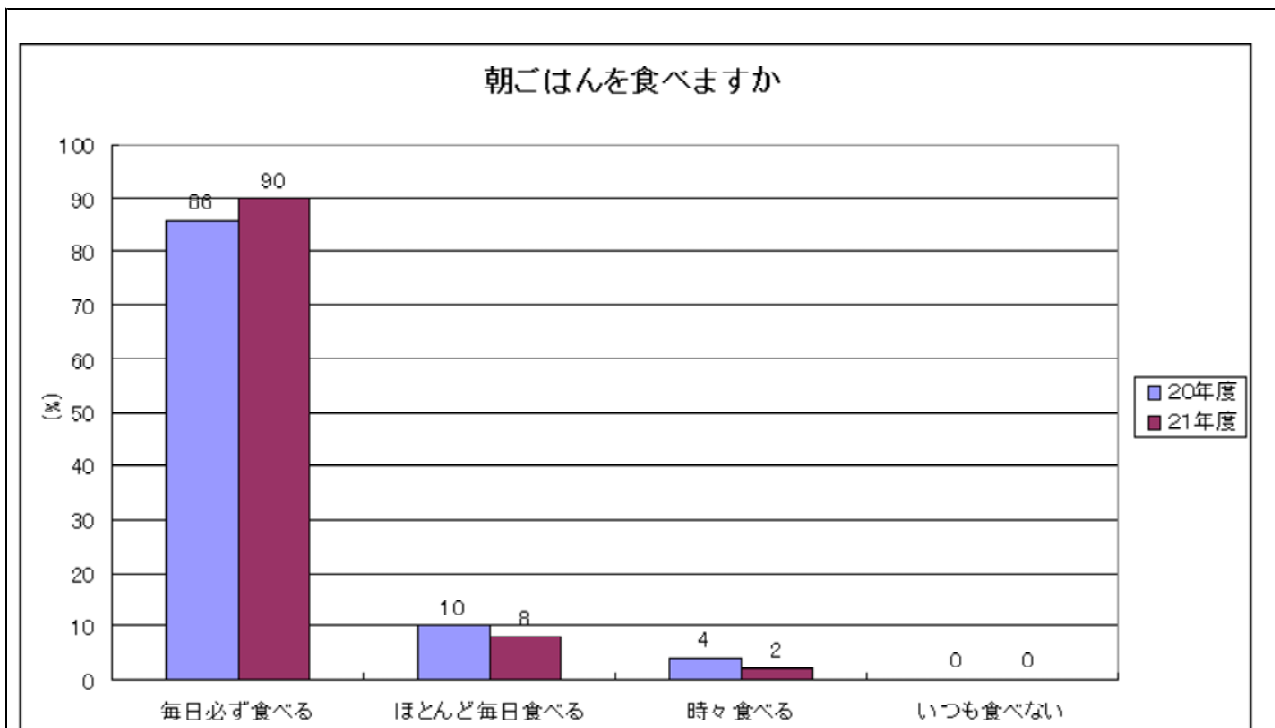
講師：北九州市津屋崎病院 森 崇 先生

演題：「食べることは 命を育むこと」

参加者：児童・生徒・保護者・地域の方・各学校へも声かけをして、拝聴して頂いた。

※ 郷土料理や食糧ならではの産物の体験活動を通じ、後世へつないでいく。

数字で変化のあった事項について



※「早寝・早起き・朝ごはん」のアンケートを20年度と比較すると、

毎日必ず食べる 86%が90%に増え

時々食べる 4%が2%に減ってきた

朝食食べた物も 主食のみが 18%が16%になり少しずつではあるが変化がみられた。

※ 米飯給食の回数 週3回 → 週4回

※ 県内産米 → 海陽町産米

事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- ・今年、いろいろな体験活動を実施する上に、講師先生を招いて料理講習会を開き「新鮮なっ！とくしま号」での実演に、「食」って楽しいと感じた児童がたくさんいた。
- ・食育の大切さがわかり、全員が朝ごはんを食べてくるようになった。
- ・生産者の方との交流で、安全で安心な食材を選べるようになってきた。
- ・マナーの向上（お箸の持ち方が上手になった）
- ・郷土食・食糧ならではの産物を知り、後世に残していかなければならないという自覚が芽生えた。

今後の課題(今回の事業により見えた課題)

- ・今以上に児童たちが「食」に関心を持つために、体験活動を続けたいが、財政が厳しい状況にあるので、保護者・地域の支援・協力を得て、継続していかなければならない。
- ・食育体験活動のマニュアル化を行い、継続的に取り組めるよう計画を行っていきたい。
- ・本校だけの食育推進で終わるのではなく、町内各保育所・幼稚園・小学校・中学校との連携をますます密にしなくてはならない。